

# 支給基準に関する基礎調査

## 視覚関連補装具について

研究分担者 山田 明子（国立障害者リハビリテーションセンター病院）

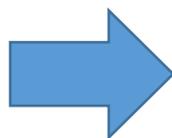
# 視覚関連補装具 調査対象と内容

- 視覚障害者安全つえ
- 眼鏡（コンタクトレンズ）

令和3-4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）「技術革新を視野に入れた補装具の構造・機能要件政策のための研究」代表：中村 隆 の中で既に調査済

## 今年度 調査実施 対象

- 義眼
- 眼鏡（矯正用）
- 眼鏡（遮光用）
- 眼鏡（弱視用）



物価上昇に伴う仕入れ価格の  
変化率について調査中

# ① 「視覚障害者安全つえ」に関する価格調査

調査対象：視覚障害安全つえの販売事業者

調査期間：2021年11月～2022年1月および2023年2月～2022年3月

基準の仕様が30年以上据え置き

現実には多様な石突が存在しているものの基準では考慮されていない点に着目し、「仕様」と「販売価格」について調査を実施

結果（回収率83.3%）

- ✓ 全体的には、**基準価格よりも販売価格が高い**場合が多かった



主体価格の変化率については令和4年度調査結果より現在解析中

- ✓ 「仕様」に関する調査より
  - 石突 回転型：プラス1000円余
  - 石突 屈曲型：プラス2000円以上
- 石突の種別を区別することの有用性が示された



仕様の種別を加味した基準価格の見直しが必要

## ② 「コンタクトレンズ」に関する価格調査

調査対象 事前調査で得られたコンタクトレンズ販売店  
調査期間 2023年1月－2月

30種類のコンタクトレンズについてコンタクトレンズ販売店を対象とする補装具費支給制度以外での販売価格等について調査を行い、仕様区分ごとに平均価格を算出した。

※コンタクトレンズの仕様区分について

補装具としてのコンタクト処方が多い円錐角膜疾患に着目し、その使用目的・効果によって以下の3種に分類（2022年10月－12月調査より）

- 多段カーブ：円錐角膜等の疾病で使用
- 虹彩付きソフトコンタクトレンズ：羞明感の軽減
- その他 従来型

# 結果（回収率58.8%） ※ コンタクトレンズ基準価格：15,400円

	単純平均(円)	加重平均 (円)
多段カーブ	24304 (+8929)	22178 (+7864)
虹彩つき	19,541 (+4166)	20,000 (+5686)
その他従来型	15,375	14,314

※虹彩つきの販売は現在1社のみ

- ✓ 視覚障害の原因となりうる角膜疾患で主に使用する「多段カーブ」や視覚障害者で訴えの多い眩しさの軽減でも用いられる「虹彩付き」の価格は基準価格を大幅に上回っていた
- ✓ コンタクトレンズは上記の分類の他に装用サイクルの観点から1日交換、2週間交換、1か月交換に分類ができる  
→ 上記の頻回交換等のソフトコンタクトレンズでの1年間の購入金額は従来型コンタクトレンズの価格よりも高いことが示された



コンタクトレンズの仕様ごとの基準価格の見直しが必要

# ③物価上昇に伴う仕入れ価格の変化率等調査

## ● 調査対象者

- ① 義眼 : 義眼製造・販売業者 (配布数4、回収数3)
  - ② 眼鏡 (矯正用)
  - ③ 眼鏡 (遮光用)
  - ④ 眼鏡 (弱視用)
- } 補装具を扱う製造業者・販売店  
(配布数19、回収数8)  
回答数は令和5年7月21日現在

## ● 調査内容

- 期間1 (令和5年6月) にいたる期間2 (令和2年4月～令和3年3月) からの仕入れ価格 (または卸値価格) の**変化率**

(以下 任意回答)

- 期間1 (令和5年6月) の仕入れ価格 (または卸値価格)
- 期間2 (令和2年4月～令和3年3月) の仕入れ価格 (または卸値価格)
- 販売数 (令和4年度)

# 結果（令和5年7月21日現在途中経過）

仕入れ価格の変化率データを得て、平均値を算出した。

		回答数	販売数	価格変化率（仕入価格）				
				単純平均	最高値	最低値	標準偏差	
義眼	レディメイド 主材料プラスチック	1	9	±0%	—	—	—	
	オーダーメイド半球型 主材料プラスチック	3	845	+5.4%	+8.4%	±0%	3.8	
眼鏡	矯正用	6D未満	1	4	±0%			
		6D以上10D未満	1	2	±0%			
		10D以上20D未満	1	4	±0%			
		20D以上	1	1	±0%			
	遮光用	遮光機能付き	15	82	+4.3%	+5%	±0%	1.7
		前掛け式	5	7	±0%	—	—	—
		掛けめがね式	12	92	±0.5%	+5%	±0%	1.44
		弱視用	掛かけめがね式	9	3	±16.5%	+20%	±0%
	焦点調整式	22	7	+17%	+38.7%	+5.9%	12.8	

回答は1社のみ  
仕入れ値は変化率であっても  
公開できずとの回答多数

# 備考欄について

現在の備考欄には弱視眼鏡 掛けめがね式について以下の記載があり

- 掛けめがね式 → 高倍率（3倍率以上）の主鏡を必要とする場合は **21,800円増し**とする。
- 掛けめがね式高倍率（3倍率以上）の対象者 → 職業上、教育上真に必要な者。  
【例】 ①現に就労中の者（求職中の者を含む）  
②地域社会活動（町内会の役員含む）参加者  
③就学中の者や各種教養講座の受講者



		回答数	販売数	価格変化率（仕入価格）			
				単純平均	最高値	最低値	標準偏差
眼鏡 弱視用	掛けめがね式 高倍率（主鏡3倍以上）	4	11	+20%	+22%	+19.3%	1.01

今回の調査より

「焦点調整式を眼鏡に組み込んで、主鏡として使用する眼鏡を掛けめがね式として申請されている実態」  
が明らかとなった

	補装具費支給事務 ガイドブック (テクノエイド)	光学的定義
<p>掛けめがね式</p> 	<p>ルーペを眼鏡に組み込んだもの 主に近用として使用され 遠用の適応は少ない</p> <p>高倍率（3倍率以上） の主鏡を必要とする場 合は 21,800 円増し</p>	<p>ガリレイ式 対物レンズ：凸レンズ 接眼レンズ：凹レンズ</p> <p>3倍以上のガリレイ式 は販売されていない</p>
<p>焦点調整式</p> 	<p>手に持って使用する タイプ 望遠鏡型で主に遠用 に使用</p>	<p>ケプラー式 対物レンズ：凸レンズ 接眼レンズ：凸レンズ</p> <p>3倍以上も販売あり 眼鏡に組み込んでの 使用も可能</p>

↑  
掛けめがね式として申請

- 「補装具ガイドブック」の定義と「光学的定義」の統一されていないことにより、眼鏡組み込み型の焦点調整式が掛けめがね式として申請される場合あり
- 今後、実態に合わせて「掛けめがね式」と「焦点調整式」の定義や備考欄の見直しが必要と思われる